

第 11 回 南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

令和 4 年 7 月 4 日(月)

午後 2 時 15 分～午後 4 時 45 分

南魚沼市事業創発拠点

参加者

【推進会議委員】(50 音順)

青柳 一博委員、飯淵 哲委員、岩佐 十良委員、桑原 信之委員、熊倉 浩靖委員長、佐藤 浩幸委員、関 聡副委員長、羽吹 忍委員、矢口 愛委員 以上 9 名

(欠席：阿部 芳男委員、マクラレン 牧子委員)

【南魚沼市】

林市長、南雲総務部長、平賀市民生活部長、佐藤福祉保健部長、南雲建設部長、片桐教育部長、内藤上下水道部長、井口市民病院事務部長、若井消防長、若井 U & I ときめき課長、西潟生涯スポーツ課長

(欠席：腰越産業振興部長)

事務局(企画政策課)：高橋企画政策課長、須藤主幹、見留主幹、平松主事

1. 開会

(進行:高橋企画政策課長)

2. 市長挨拶

(林市長)

本日は第 11 回まち・ひと・しごと創生推進会議ということで、お忙しい中たくさんの皆さんから、ご参集賜りまして誠にありがとうございます。

暑かった日が続いて、昨日雨が降って久しぶりに本当にほっとしました。実は市内の農家の皆さん、土地改良区、そして農林課は冷や冷やしておりました。思い出すのは平成 30 年の日照りで、地下水まで全部上げて米を守ったということがあり、それをほうふつとさせる部分がありました。昨日の雨くらいでは全然ダメなのですが、少しだけほっとしているところです。

今日はまず皆さんに感謝から申し上げようと思います。昨年に委員の改選がありましたが、皆さんからは留任をいただきました。本当に皆さんお忙しい中にも関わらず、このような形でご協力をいただき、改めて御礼申し上げます。

私は市長 2 期目がこの秋で半分が経過するわけですが、今までいろんなことに立ち向かう必要があり、様々な問題に関して今日お集まりの皆さんからご協力をいただいているわけです。何と云ってもこの 3 年間ではコロナがあったわけですけど、ようやく長いトンネルの先が見えてきたと思います。本当に全世界大変でした。加えまして、世界の情勢の変化でいろいろなことが立て続けに起きているわけですが、本市としては長く続いた大きな課題である、私にとってはのどのつかえというか、骨が刺さったままの状態だった新ごみ処理施設の立地予定地が地元の皆さんからのご理解をいただいて定まりました。このことから、ごみ行政としては新たな素晴らしい施設

を造るとするのは当然のことですが、これに伴い市内の様々な施設の統合またはコンパクト化、そして新しい時代に向かっていろいろな青写真を描ける段階になってきたと思います。本日は様々なテーマをご審議いただきますが、加えて新たな取組に関しても皆さんにはいろいろな形で情報提供をさせていただき、時にはみなさんからもご意見を頂戴するような場面も大切にしたいなと思っておりますので、よろしく申し上げます。

医療のまちづくりにも取り組ませていただきました。医療の困難地域である新潟県、その中でも魚沼地域は最悪な困難地域と言われています。様々な行政のこと、地域の将来を見据えてもこの医療の部分は実に大きなテーマとなります。これについても現在改革が進められており、市民の皆さんがこれまでずっと心配してきた次の時代はどのように進むのかについて、一定の骨太の方針を発表するに至りまして、これに向かって邁進し始めているという状況でございます。

このコロナ禍で皆さんもこう思いませんかでしたでしょうか。コロナになって何が一番心配か。マスクの心配をしたり、救急の心配をしたり、経済の心配をしたり、いろいろ取り組んでまいりましたが、私市長として一番心配したのは子どもがまた生まれなくなるということでした。加えて、結婚しない人が増えると思いました。この心配はまさに杞憂を通り越して本当のこととなりました。実は平成2年の合計特殊出生率は1.44、当時これは回復を見せていました。具体的に申し上げますと全国平均は1.33で、県内平均は1.33、当市は1.44だったのですが、平成22年に出生者数が400人を下回ったときは驚きました。これは何とかしなければならぬぞと思っていたのですが、これが令和2年には300人の前半になりました。そして令和3年には200人台に。この点が非常に心配であります。

世の中が明るい方向に向かっていくこと、これに私は尽きてくると思います。コロナでお葬式や結婚式ができない、親せきが集まれない、知人や友人に会えない。このような状況が続きましたが、悪いことばかりではなくて、人間が顔と顔を合わせるということがいかに大切なことであるのか、様々な冠婚葬祭の簡素化という名の希薄化を進めることがいかに無力であるかということをお我々は少し経験できました。今後様々な事業展開の中の一番基本のところはこの辺を考えて進んでいかなければならないと思っていますところです。

本日はいいことがありました。最初から市内全域でできなかったのですが、旧塩沢町の上田地区でローソンさんによる全国では地方展開として初となる移動販売の事業に踏み出し、午前中に出発式を行ってきました。この事業は公が行います。お年寄りの問題や交通弱者の問題など様々なことに関連している事業です。絶対に経営的にうまくいくはずがありません。しかし、ここに乗り出さなければただ見ているだけということになります。これを上田地区で実証実験的に今年やってみて、今日的課題である様々な地域の問題に対処していく必要があるということで、踏み出してみました。

最後にもう一点だけ。本日藤井壮太さんが、棋聖戦で永瀬拓矢王座と一戦交えています。5回連続の戦いの中の3局目ですが、全て南魚沼の織物で登場していただいているということです。これについて、大変いいことだなと思って、産業振興等いろいろなことを頑張っていきたいなと思いました。いずれ藤井聡太さんにお会いする日が来るのかなと信じながら仕事をしていきたいです。

長くなりましたが、本日は様々な交付金事業について担当から説明を申し上げたいと思います。

そして、多くのご意見やご評価を頂きたいと思っております。ときに厳しく、ときに力強く、皆様からお力添え賜りますようによりしくお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。

本当に今日はお忙しいところありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

資料及び出席委員の確認

(高橋企画政策課長)

- ・席順表と出席者名簿を記載した会議次第、資料 2-1 補足、資料 2-2 補足、資料 3 (差し替え版) 資料 4 (差し替え版)、資料 4 補足を当日配布し、配布された資料及び資料概要を説明
- ・出席、欠席委員の報告
- ・新任の飯淵委員、桑原委員、阿部委員 (欠席) の紹介、挨拶

3. 委員長・副委員長の選出について

(高橋企画政策課長)

新たな任期の初めての会議となりますので、委員長と副委員長の選考を行います。この推進会議では、設置要綱の規定により委員長と副委員長を置くことになっており、委員の互選により選出することになっております。

事務局としましては、委員長については、総合戦略策定に中心的に携わっていただき、前回は委員長を務めていただいた熊倉先生から引き続きお願いをしたいと思います。副委員長についても、引き続き関委員にお願いしたいと思います。委員の皆様からご意見をお願いします。

(一同)

異議なし

(高橋企画政策課長)

それでは熊倉委員を委員長、関委員を副委員長として、また新しい任期をよろしくお願いいたします。では、熊倉委員長、関副委員長から一言ご挨拶をお願いします。

(熊倉委員長)

第三者という立場ですので、地域の皆さんが話やすいよう議事を進行したいと思います。よろしくお願いいたします。

(関副委員長)

皆さんとともにたくさん意見を言っていこうと思いますので、ぜひ皆さんも忌憚ないご意見をよろしくお願いいたします。

4. 議題 (1) 令和 3 年度地方創生推進交付金事業の効果検証について

(熊倉委員長)

事務局及び担当課の説明を聞いたうえで、各委員から意見と質問を伺う格好で議事を進めます。

(企画政策課 見留企画主幹)

資料 1 及び資料 2-1 により事業の位置づけ、資料の見方を説明

資料2-1:「みらいの雪国を創る人材育成及びしごと創生事業」

(若井 U&I ときめき課長より説明)

(熊倉委員長)

委員の皆さんからご意見をいただく前に一点確認させてください。総事業費は、単年度の金額ですか。令和3～5年度の全体で6000万円を超える事業費だということですか。

(若井 U&I ときめき課長)

お見込みのとおりです。

(熊倉委員長)

費用対効果を考えるときに3か年で6000万円ということに対して、目標設定が妥当であるかも含めて皆さんと考えるために共有させていただきました。

もう一点、リモートワークを実施した者の数はどのようにカウントしたのですか。

(若井 U&I ときめき課長)

市内のホテル3か所で実施した起業家育成関連のイベントでリモートワークをした方が21名。また、まちづくり推進機構にアドバイザーがいて、その方の関係のイベントで3名。あとは現地体験、リモートワークセミナーの参加者が17名で、以上合わせて41名です。

(熊倉委員長)

リモートワークのイベントや体験会の参加者数ということですね。実際にリモートワークしている方が41人というわけではないですね。

企業さんは違う数を持っていると思いますが、その辺を含めて皆さんの意見を聞きたいと思います。リモートワークやブランド化も含めて、おそらく一番実態を知っている岩佐委員、この数字等を見てどのように感じますか。

(岩佐委員)

このリモートワークに関してはうちの宿だけでも、毎日ほとんどの方がパソコンに繋いで仕事をしていますので5000人くらいはいくかなと思います。したがって、ここに関してはもう少し違うKPIの測り方をした方がいいのではないかと思います。

(熊倉委員長)

矢口委員はいかがでしょう。

(矢口委員)

農業について聞きたいと思います。20人が新規就農とあるのですが、これが果たして今年度になって20人のうち何人残っているのかが知りたいところです。そして、また今年度に農業に就く方がいると思いますが、その比率はだいぶ変わってくると思うので、その結果をまた次回に聞きたいです。

リモートワークに関してですが、宿泊の方は思った以上に利用している方は少ないです。やはり民宿という施設なので、リモートワークをする場所ではなく、遊びに来るところ、家族で遊ぶところというイメージが付いているのでやはり難しいかなと感じるところです。

(熊倉委員長)

リモートワークを実施した者の数に関しては、先ほど岩佐委員のおっしゃったように、より実態

に則した市民に対して説明もしやすい違う数字があると思います。

一方で矢口委員のおっしゃる楽しみに来られる方とまさに仕事で来られる方とを両方受け入れることがこの地域の関係人口の増加に繋がりますので、それらを見計らって指標を変えるのも一つかなとお二人の話を聞いて思いました。

実際に人々の動きが経済効果にどう影響しているかは、青柳委員に聞くのが一番かと思います。この数字についてどう考えましたか。

(青柳委員)

実際リモートワークをした方の内訳がイベント関連の41名では、KPIとしては物足りないのかなと思います。また、それは継続性のあるものなのか、どのような基準でここ南魚沼を選んだのかということが知りたいところです。わたしも金融機関にいる者として、観光の分野や飲食の分野に関しては非常に苦戦されている事業者をたくさん知っています。その方たちのためにも、こちらに人を呼び込むということは、具体的にどのようにしていかなければならないかをもう少し踏み込んで考えていくことで、この地域の価値がもっと高まってくるのではないかと思います。

また、マーケティングは、非常にスピード感が大事だと思っています。この事業は組織としてはU&Iときめき課、商工観光課、農林課でやっていますが、ある意味横断的にチームを組む必要があるのかなと思います。これだけDXが進んでいる中なので、組織がスピード感を持つためにももう少し組織をコンパクトにして、市としてその辺の組織の再編を進めていくことも必要なのではないかと感じました。

(熊倉委員長)

市自身がリモートワークや新しい働き方を進めて、この地域の特性をどう生かしていくかという課題が今の話の裏側にあったと思います。とてもいい意見をいただきました。

羽吹委員はこれらについてどう思いますか。

(羽吹委員)

まずリモートワークですが、この41人という数字がどうなのだろうという気持ちは皆さんと同じです。その内訳の中で市内のホテルを利用した方が21名とお聞きしましたが、それもイベントで来たのでしょうか。それともホテルがリモートワークできますよと案内してきてもらったのでしょうか。そういう人たちの感想は聞いているのでしょうか。

私が思うのはリモートワークをする意義です。イベントや温泉があるから気晴らしにここで働きたいという趣旨でやっているのか、それともここに永住してリモートワークをするのか。最近NTTが会社に行かずに自宅で仕事できますよと話をしていますよね。そういうところを狙っているのか。それがよくわからないところです。この辺をもう少し明確にした方がいいのではないかと思います。

私の息子も今年就職してベンチャー企業に入りましたが、ほとんどリモートワークだそうです。アパートで仕事をして本社にはほとんど行ってない。そういうのが若干流行っているのかなと。そうなるとうような地域を利用してもいい。例えば、空き家がたくさんあればそれを市が改修工事をして人に来てもらうことなどを、もう少し考えた方がいいのではないかなと思いました。

それとブランド品の販売額ですが、当初の目標よりも急に大きな数字が出たということは、目標設定が違ったような気がしますが、その辺の設定を今後どうするのか検討が必要なのではない

でしょうか。おそらくこれは六日町観光協会で行っていた事業を南魚沼市観光協会に移管した事業だと思います。ではこれはリピーターはどれくらいいて、どのくらい増えているのか。横ばいでは意味がないと思うので、リピーターを増やさなくてはなりません。そのやり方として EC サイトを使って増やしていくのはいいことだと思いますが、数字が今年でとりあえずクリアしてしまっている状態なので、この次はどうしたらいいか考えていかなければなりません。

(熊倉委員長)

人の動きを見ていて、リモートワークの普及やブランド商品の売れ行きなど桑原委員はどういう感想をお持ちでしょうか。

(桑原委員)

リモートワークについて感想ですが、ご承知のようにリモートワークがかなり浸透してきていることによって、首都圏ではコロナが収束したとしても、我々輸送業はおそらくコロナ前の 8 割くらいしか利用者が戻らないと言われていました。したがって、鉄道職としてはリモートワークが進むのはあまり喜ばしいことではないと思います。ただし、やはり移住してリモートワークをしてもらおうというのが非常に大事なかなと思っておりまして、南魚沼市の人口がどんどん増えていく、地域が活性化してくれば鉄道の利用もおのずと上がってくるはずなので、リモートワークの推進が移住者が増える方向に働いてくれればいいのかなと思っております。

あと、ブランドの関係ですが、やはり南魚沼産コシヒカリや雪室製品は全国的にいろんなところを見ても軒並み高い評価を受けていると思いますので、今後も魅力を伸ばして行ってほしいです。

(熊倉委員長)

いろいろなブランドが出ているということは、やはり南魚沼の力であるという印象が私ども関東の人間にとっては強いです。また雪室も関東にとっては新潟のイメージとして定着しています。新潟は美人とお米と雪室とお酒だというイメージは定着していますので、もうブランド化はできているのです。

それから、リモートワークで来る方と南魚沼の環境を楽しみに来る方とをトータルして新規の人々の移動を創れるか。あるいはすでにこの地域で暮らしている方がリモートワークを活用することで、他の地域の人に南魚沼市に来ればこういう暮らしができるんだと思わせる企画を創っていくか。もう少しそういう数値設定だとか目標設定をひとひねりした方がいいのかもしれません。

そういう意味で北里大学の飯淵委員に聞きたいのですが、2年間コロナで遠隔授業ばかりになったようなところもあると思いますが、学生、先生方、あるいは東京の北里大学も含めて、リモート等による人の変わり方について何か参考になることはありますかでしょうか。

(飯淵委員)

本学は専門学校なので、コロナ禍においても極力対面で授業をやるとか、実習をやるとかは重視してきました。2年前にコロナが蔓延したときは2か月ほどリモートでということはありませんでしたが、それ以降は基本的に対面で、あとはハイブリッドで対面とリモートと並行してやってきたという経緯があります。こういう状況の中でも極力対面での授業を進めるところに苦勞を傾けてきました。

あと、私事ですが、私は昨年10月にこちらに来まして、実は神奈川県川崎に住んでいて、

毎日ここまで通っています。働き方の多様化と言いますか、実は昨年10月にこちらに赴任するという話が来た時に、家庭の事情もあって、まさしくオンラインでこの事務長を勤めることを検討しました。しかし学校の事務長職という性質上、やはり現地で仕事をしないわけにはいかない。それは私も重々承知をした上で、当時の学校の本部サイドと協議を重ねた結果、新幹線で通えばいいじゃないかということになりました。実は新幹線で東京駅から浦佐駅まで1時間20分です。だから東京駅を7時4分に出ると、浦佐駅には8時25分くらいには着いています。そこからスクールバスを乗って8時35分に学校に着いているというような感じです。そして本部の仕事はこちらからリモートでやっています。だから働き方そのものが以前と全然変わってきたという印象があります。距離は変わらないのですが、時間が変わってくるということでいろんなことが工夫できるのではないかと思います。

(熊倉委員長)

ぜひ、飯淵委員に取材していただいて市の新しい冊子に取り上げてください。

(飯淵委員)

以前は自宅から相模原のキャンパスまで10年間くらい通っていましたが、ここに来ると30分も違いません。しかも相模原に通っていたころは毎日満員電車で揺られていましたので、非常に疲れました。むしろこちらに来るのは新幹線で非常に快適ですし、新幹線の中で十分仕事ができますので、往復で3時間弱くらい快適に仕事をしています。

(熊倉委員長)

しかも本部の事務仕事を、浦佐でやっていて全国に発信している。これはぜひ取材してください。飯淵委員のような方の事例が本当のリモートワークとかマルチハビテーションを実現している様子だと思って、国の仕組みに従ってこういう例がありますという話はもうやめましょう。地元からの発信もしっかりやりましょう。それもとても重要だなと思いました。

では県の立場からこの周辺の地域と比較して南魚沼の状況はどうですか。県全体を見渡してこのKPIの数字について何か意見があればお話しください。

(佐藤委員)

残念ながら私ども地域振興局では、他の地域の状況を把握できていません。したがって、他の地域と比べてこのKPIの設定が良いのか悪いのか、数値の評価としてどうなのかは判断できないというのが正直なところです。ただ、先ほどから各委員のお話にある通り、このリモートワークを実施した者の数というKPIはやはり見直した方がいいと思います。

(熊倉委員長)

県の立場からはなかなか言いにくいかもしれませんが、他の〇〇市や〇〇町でこういう取組をしていて参考になるというのがあればご教授ください。あとでもいいので市の方に意見を出してあげてください。

(佐藤委員)

承知しました。

(熊倉委員長)

皆さんから付け加える意見が無ければ、関副委員長からご自分の意見も含めてまとめをお願いします。

（関副委員長）

意見をまとめるというより私の意見なのですが、リモートワークは大変進んでおりまして、先ほど飯淵委員がおっしゃった距離は変わらないが、時間の尺がすごく短くなっています。私 28 歳まで川崎のソリッドスクエアの 14 階で働いていまして、今でも川崎には仕事で行きます。朝出発して午後 1 時から南魚沼市で仕事というタイムスケジュールができて、ほんと時間が変わってきているなと思っています。

今後リモートワークにどんどん興味を持って、たくさんの方にイベントに来ていただきたいと思います。そこで具体的にできるかは別として、今はマンションが結構空いていますよね。うちの会社でも何部屋か買って社員寮にしていって、温泉も付いているし、ジムも付いています。昔は何千万円もしたものが今では 50 万円とか 70 万円になっているところを、例えば 50 部屋用意するとか。あと旅館で経営に苦戦なさっているところで、10 部屋ずつ空いているところ確保して、イベントに来た人に温泉付きで用意するとか。管理費の一部を市で助成したり、東京への帰省や家を二つ持つ場合にはその往来のための交通費を一部市で助成するとか。このような一気にこっちに移住してきてもらえるような目玉の施策があると面白いなと思いました。

移住や UI ターンを推進するためにリモートワークというコンテンツをきっかけとして、こちらで用意すべきものを半分くらい用意してあげる。それがマンションや旅館であれば、来る側としてはそんなに用意してくれるのだったら奥さんに話してみようかなということになると思います。例えば実証実験的に 10 部屋で始めるとすれば大した額にはならないと思います。

もう一点、農業は私詳しくないですが、今 IOT でどんどん自動化になってきています。あと 10 年後くらいには今とぜんぜん変わると思います。300 万円くらいするヘリコプターで散布する機器は、全部ドローンになって 50 万円から 70 万円くらいの安いものになったり、全部リモコンで一気に植えて、一気に刈ってみたいなことになると思います。後継者不足に関して、後継者になって将来 10 年後に IOT 技術が進んで自動化になった時に、年収 800 万円は固いよとか、1200 万円くらい目指せますよとか、そういう将来像に向けた PR の仕方というのはできるものなのでしょうか。

というのも、建設業なので、現場監督年収 800 万円などというバナーが表示されてしまいます。こういうのは社員に見られると困ってしまいます。社長、私はそんなにもらってないと言われそう。東京や埼玉、新潟市の大きな大手ではそういう高収入の求人がバンバン出ているのです。実際はそんなに甘くないのですが、やはり魅力的だと思います。農業の後継者になれば、将来自分で作業するのではなく、機械を買って使えばそのくらい上を目指すことが可能なかということが知りたいです。

（若井 U&I ときめき課長）

関副委員長のおっしゃるとおり、農業の IT 化、AgriTech（アグリテック）が非常に進んでいることは確かで、うまくいけば生産額も上がりますし、収入も当然上がると思います。しかしそれによってどのくらい上がるかの明確な数値はなかなか出しづらいです。

（関副委員長）

夢があると若者が食いつきやすいかなと、東京からたくさん一気に人が来てくれるかなと思っ

て質問させていただきました。

そして、リモートワークに関しては少しテコ入れがあると一気に進む気がしましたのでご意見させていただきました。

(熊倉委員長)

この事業の KPI についてはいい数値が出ていますが、もう一度ずっと大きな戦略的な位置づけをこの事業に与えて、現実に沿った KPI を設定し直すことを市の中で考えてください。

(若井 U&I ときめき課長)

KPI の再設定というのは、この交付金事業ではできないこととなっています。委員の皆さんのご意見はまさしくそのとおりなのですが、国からの指導で明確に拾える数値を KPI に設定することになっており、国の担当者と協議の上でこの数値を設定しています。当然先の話にあったようにリモートワークをしている方はもっと多いですが、その人数を明確に拾うことが難しいため、その辺をお含みおきいただきたいです。委員の皆さんのご意見は重々を理解しており、気持ちの中ではそういったことをしたいと思うのですが、KPI の再設定はできないということをお願いいたします。

(熊倉委員長)

それは国を説得すればいいことですよね。

(若井 U&I ときめき課長)

委員の皆さんからいただいたご意見は、心の中に含めながら進めたいと思います。

(熊倉委員長)

もう少し上手に書くという意味では、「リモートワークを実施した者の数」を「リモートワークのイベントに参加した者の数」とすればその数値はそのままいいでしょう。はっきり書いてしまった方がいいかもしれないですね。そして実態は、ヒアリングによれば市内でこれだけの数が参加していて、それは冊子にまとめて発表していますと。そういう形でいいのではないのでしょうか。実態に則すということと、市民により希望を持たせるような事業展開をしていかないと満足しないなと思いますので、そのように進めてください。

それからブランド製品の販売額やふるさと納税の返礼品の KPI も目標値を達成してしまっているため、この辺をどのように見直していくか。KPI の達成状況の評価基準について、ある意味では①の前に②があって、KPI 以上を達成という項目があってもいいのかなと思いました。そういう気持ちで今後も戦略的に進めていきますという意見がいいのかしれません。外部有識者の意見については、今の皆さんの意見をまとめて書いてください。これは企画政策課があくまでも中立的な立場で外部有識者の意見としてここに記入して、①以上であると。①以上の更なる成果を出すような実態があるのだから、頑張ってもらいたいという意見にまとめるのはどうでしょうか。

(一同)

異議なし。

資料 2-2:「雪国で共に創るスポーツを通じた健康増進プロジェクト」

(西潟生涯スポーツ課長より説明)

(熊倉委員長)

指標の目標値や実績値の見方ですが、目標値が令和1年度の事業開始前に比べて何人増えたかと思えばよろしいですか。健康ポイントの目標達成者数は39人増えたが、自転車関連イベントの参加者数は500人減ってしまったということですか。

(西瀧生涯スポーツ課長)

お見込みのとおりです。自転車関連イベントは870人しか参加がなかったということです。

(熊倉委員長)

先の事業に比べると確かにKPIの数字自体は低いですが、事業評価としてはコロナの問題もありますし、当初の想定そのものが少し過大ではなかったのかということも含めて皆さんからご意見をいただきたいと思います。

その中で自転車については、一番詳しく、様々なスポーツイベントに携わっている関副委員長から実情も含めてご意見ください。

(関副委員長)

南魚沼市はサイクルイベントにかなり力を入れており、今年はシクロサミットが開催され、市区町村の首長さんが多数いらっしゃるということで、非常に活性はしてきているのかなと思います。

残念ながら昨年、一昨年と人数は少なかったのですが、今年は現在募集している最中で、1000名までは参加者が集まるかなという状況です。佐渡のイベントも参加者が普段は4000名集まるところが1500名しか集まらなかったり、やはり全国で苦戦しているみたいです。出不精というか、家族からすれば、「あんた行くの？コロナ終わってから行って」みたいな状況でした。あと、ロードレースとクリテリウムの実業団の方々も500名の選手が参加しますし、今年は飲食も伴ってということでプラス1000名くらいの観客が見込まれるところです。

昨年クリテリウムを開催した感触から言うと、観戦した方が自転車を始めるとか、ゴールデンサイクルルートがあるから自転車で走ってみたいという方がいるように思います。ほとんど市外から人が来るので、その方たちへいかに南魚沼のゴールデンサイクルルートのことや、自転車の楽しみ方を伝えるかが大事です。それから、JRに自転車を持って乗って来られたり、温泉があったり、ついでに釣りができたりなど、このスポーツコンテンツからいかに波及させていくか。サイクルフェスタの3日間では県外からも非常にたくさんの方がいらっしゃいますので、そこで一気に周知するいい手段はないかなと模索しております。また、将来的には観客も合わせて5000人から10000人の規模で開催できると思いますので、そこで一気に周知して、WEB等で検索をするように誘導できる施策があればすごい効果を生むのかなと思っています。

あと私ごとですが、この2年間コロナで飲み会が少なくなると、自転車をたくさん乗ったらかなり体重が落ちました。人間ドックでは良い評価しかなくなり、保険料がすごく下がって、やはり健康は大事だと社員にも言っています。そんな形で内向きには市民に対しても、プロのレースの前に子どものストライダー大会をやったりして、健康増進に自転車っていいなと、スポーツっていいなと子どもたちにも周知して、いつの間にか健康のまちになって、この地域ってすごく健康診断の結果がいいねとなるとすばらしいと思います。

(熊倉委員長)

イベントなどが宿泊の方や公共交通機関の利用者に繋がって全体で潤っていくのかという視点も必要かと思しますので、矢口委員何か異なる意見があればお願いします。

(矢口委員)

自転車の取組が結構 PR されていたので、観光に繋がられないかなと思い、電動自転車ではないですが、実際に中学生の娘と一緒に自宅から銭淵公園までチャレンジしてみました。現地に集まってという調査ではなくて、レンタルサイクルと自分の持っている自転車でできるモニターツアーができればいいと思いました。例えば、グリップにモニターツアーに参加されている方が分かるようなものをつけて、実証実験をしてみるともっといい効果が表れるのではないかなど。やはり、現地に集まってのモニターツアーだと人数も限られますし、長期の調査ができないので、そういうふうに変えてもらいたいです。今回このレンタルサイクルは市民しか借りられないため、観光に繋がづらいと思うので、少し考えていただきたいと思います。

(熊倉委員長)

すごくいい意見ですね。市民もイベントそのものを目的として来るわけではない人も随時参加できる仕組みを作ることは、一つ課題かなと思いました。十日町市から津南町にかけて行われる越後妻有アートトリエンナーレのように、ある種のプロの集団だけが動くものに対して、住民がどう参加をしていくかを考えていかなければなりません。プロだけでは狭まって行ってしまって、住民は見る側だけになってしまう。私たちも参加するという仕組み、これはこの地域のワーケーションやリモートワークもそうですが、イベントに参加できる広がりや創っていく方が相乗効果が生まれるのかなと思いました。

青柳委員、これを少し経済的な側面から見たときに、どの辺にもう少し力を入れたらいいと思いますか。

(青柳委員)

私は長岡市出身で、最近長岡市はアルビレックス新潟のバスケットボールのホームタウンになって、知らないうちにバスケのまちになっていました。そして帝京長岡高校のサッカーが強くなって、いつの間にかサッカーのまちになっています。私は小さい頃から長岡市にそんなイメージはなくて、スポーツはむしろ中越高校の野球が強くてそのイメージでした。

既に話が出たかもしれませんが、自転車のまち南魚沼にしてほしいなと思っています。次世代の子供たちがここは自転車のまちだから、将来南魚沼市で自転車の選手になりたい、ロードレースに参加してみたいとか。僕は前から言っているのですが、将来はここ自転車のまちで活躍したいと思うような競走部を高校の部活に作ってほしいと思っています。県外からもそういう学生が移り住んでくるような。長岡市も帝京長岡高校が強くなったおかげで、ほとんどサッカー部は県外出身が多くなっています。それがいいのか悪いのか分かりませんが、そこに住むにはそのための施設が必要で、そこにお金を落とす県外の親御さんがいます。また各種のイベントが開かれます。

そして、時には広域連携というのも大事だと思います。新潟県だと自転車と言えば弥彦競輪がありますし、そういった地域との連携もありだと思います。

あとは南魚沼市には観光があるわけですので、これからインバウンドの方々が来るための、外国語で案内ができるボランティアの方を育成することも大事だと思っています。どうしてもめんどくさいので案内文書を渡したりするだけかもしれませんが、外国人の方々はおそらく日本人と触れ合いたいと思います。自転車のまち南魚沼を日本人だけではなくて海外の方にも知っていただきたいです。そして、将来的にはツール・ド・フランスのような大会を開いて、そこに岩佐委員たちとも連携したいろいろなものができるのではないかなと思います。これは経済へ波及していく効果は大きいはずです。

(熊倉委員長)

教育連携で飯淵委員、観光連携で岩佐委員続けてお願いします。

(飯淵委員)

本学は県内や市内の学生がいますけれども、やはり県外の学生も多くいます。教育的な立場からすれば、ここ南魚沼の風光明媚な地に3年～4年学んでいく中で、自転車を通じて、何か新しいものを、今までは全く都会では経験できなかったことを経験して、それがその人の一つのライフスタイルになっていくような教育的な効果は絶対あると思っています。私は今日初めてこの会議に参加させていただいて、こんな画期的なイベントや催し物がされていることは初めて知りました。実はうちの学生たちはこのようなことをやっているとは知らないのではないかというのが正直なところなんです。だから非常にもったいないなと思います。まさしく地域の学校と市が連携しながら教育効果を高めていくということは非常に大事だし、学生は卒業してから地元に戻るかもしれないですが、やはりこの地で経験したことというのは、その学生の人生にとって非常に有意義に働くのではないのでしょうか。そのような印象を受けました。

(岩佐委員)

自転車に関して少しシビアな話をさせていただくと、自転車ブームは正直少し終わりかけている部分があります。今まで自転車ブームがずっとあって、各自治体が自転車の様々なまちづくりを掲げていて、私もあちこちで自転車のイベントやコースを造ることなどたくさんしています。ただ、その一方で自転車のブームが少し下火になってきているということは、このKPIを実現することはどう考えてもハードルが高いですね。この状況でKPIを達成しなければならないということは、他の自治体よりもエッジの効いた自転車ファンの心を掴むようなイベントを今後やらないといけません。逆に、自転車のブームに限りがあるが、自転車ファンがゼロになることはないわけですから、自転車とスキーのまち南魚沼としてこれからPRしていくのは全く間違った話ではないです。ただこれを数値だけで考えれば、スキー人口が減っている状況で南魚沼市のスキー場の来場者を増やすKPIを設定しているのと同じことですから、非常に難しいことになりそうですね。自転車関連のイベント参加者をどのように増やすのかということに特に重点を置いて、どこにどういう自転車のイベントをして、どの層に向けてどういう人たちに確実に来てもらうかということ考えた上で、KPIを再設定した方がより効果的だと思います。その方がおそらく自転車とスキーのまち南魚沼というのがより明確に見えてくるのではないかと思います。

もう一つ、先ほどスキーの話が説明の中に少しありましたが、せっかくの南魚沼市の事業なのでこの中にスキーが入っていてもいいと思いました。スキーは当たり前ということかもしれませんが、最近はスキー学校やスキー学習が少なくなっているということを聞いていて、悲しく思っ

ています。単純にスキーで人を増やすみたいなのがあるといいなと感じます。私は忙しい中でも今年年間49日スキー場へ通いました。KPIで市民は必ず年間10日スキー場へ通うみたいなものを設けると、南魚沼市のスキー場が一気に盛り上がるのかなと思いました。

(熊倉委員長)

すごいヒントがありまして、実はトライアスロンが徐々に定着しつつありますが、魚沼は海がないので、スキーと自転車という新しい総合スポーツイベントを定着化させていくというのも一つですね。

(岩佐委員)

そうですね。スキー、スノーボードを好きな人は自転車が好きな人とかなりリンクしているため間違いないですね。

(熊倉委員長)

トライアスロンに代わる何か新しい、夏と冬という季節で行えるものがあったらいいかもしれません。

(林市長)

今の熊倉委員長の話は、山岳リゾートで世界的に有名な南魚沼市の姉妹都市のオーストリアに通じます。あそこにはトライアスロンの山岳版があり、かなり熱意を持ってやっています。当市の狙いもオーストリアのリゾートみたいなものです。しかし、これだけをやっているだけでもダメなのです。オーストリアのリゾートは別に自転車だけをやっている人ばかりではありません。あの山岳のリゾートには日本にはないような想像できないほどのプールが造ってあります。それを地方が造ってしまったのです。

また、公共施設について発想を変えなくてはならない。例えば市役所や高速道路など発想が違いすぎています。我々は下手にオーストリアと姉妹都市であるわけではなくて、見続けてきていて、やはり参考にすべきところはあると思います。そしてオーストリアもこちらを見続けてきています。オートバイから完全に自転車に転換してします。

日本の中においても、実は自転車道の整備に関しては、西日本に完璧に負けています。西日本は自転車道はほとんどできています。そういう国の中の不均衡さを我々は打ち消していくということも含めて、雪国なので路肩もあるわけなので、それらを利用しながら完全に変わっていくというぐらいの気合を持って、自転車には取り組まなければならないと思っています。

(熊倉委員長)

今市長がおっしゃったことで二つ大きなヒントがあったと思います。一つは姉妹都市がすでにそういう先駆例をもっている。それならば東西でそういう拠点を創ろうという形で、スキーと自転車を組み合わせる。もう一つは自転車道をしっかり整備していく。雪国であったがゆえにある道路の路肩をうまく使って自転車道を完備していく。これはいいアイデアをいただいたので、KPIにどうするかはともかくとして、意見としてここまで広げていきましょう。今回コロナで非常に厳しい数字だけれども、それを見直すことによって今回より大きな展開が見えてきました。

自転車はスポーツであり、イベントであると同時に生活の一部ですので、公共交通機関と繋がっていかなくてはなりません。桑原委員ぜひ公共交通機関との繋がりについて、お考えになっていることがあればお願いします。

(桑原委員)

ずいぶん前からサイクルトレインという話がありまして、近くと同じ第三セクターの越後トキめき鉄道さんはすでにサイクルトレインを始めています。あそこは海沿いにサイクルロードが走っていて、それとリンクさせたサイクルトレインが走っています。

なかなか前向きな発言ではなくて申し訳ないですが、当社では自転車自体は電車には持ち込むことが可能なのですが、袋を被せたりなどの制約があります。サイクルトレインはそのまま自転車と乗り込めるという非常にいいアイデアなのですが、なかなかこれには車両の改造や駅のホームの構造の問題があって、すぐにやりましょうという話はできません。もう少し社内で検討させていただいて、ぜひ協力できるところは協力をしたいと思います。

もう一点、駅から移動される方は結構自転車を使っています。十日町のエリアでは大地の芸術祭があり、最盛期には20万人から30万人のインバウンドの方が来られています。その方々は駅からありえない距離を自転車で移動されます。そこで、駅前のレンタルサイクルの需要が多くなっています。すでに南魚沼市ではいろいろな拠点でレンタルサイクルを始められていますので、そういったところと連携できればいいと思っています。

(熊倉委員長)

羽吹委員ずっとお話を聞いていて、いろんな意見があろうかと思っていますのでお願いします。

(羽吹委員)

自転車についてはだいぶ浸透してきたし、おそらく市民の方で自転車に乗る方がすごく増えてきているので、それはすごく成果があったのかなと思います。実際私も自転車に乗るようになりました。

ただ、スポーツとして考えると、先ほど市長もおっしゃったように山岳リゾートというイメージがすごくいいのではないかと思います。冬は確かにメジャーですが、それ以外のグリーンシーズンは、市内には手ごろな高さでいい山が結構あります。私も仕事で登山道整備やっている関係でいろいろな山を登っています。一日で帰ってこられる山なので、それをどんどん売り出せば人は来ると思います。登山道も他県に比べれば新潟県はかなりいいはずですよ。坂戸山は毎日登山客ですごいですね。それだけ市民は自分の体に気を使って何かやろうとしているのだと思います。特に冬はなかなか動けないから夏場に動こうという気持ちがあるのかわからないですが、動くのは好きだと思います。なので、登山をもっとアピールする必要があると思っています。

今回KPIは、自転車のイベント関係が多くあるのは仕方がないと思いますが、今後はスポーツ全体を考えてやるのが非常にいいのかなと思います。その中の一つに除雪作業です。当然我々も建設業なので冬は除雪をやっています。除雪作業の取組はどんどん頑張ってもらった方がいいのかなと思っています。おそらくこの地域にいる人は冬の除雪が嫌なのではないでしょうか。そしてこの地域から出ていってしまう。特に高齢になればなるほど除雪が大変になるため、それを市民がうまく除雪できる体制になれば、冬の心配事がなくなって、ここにいてもらう率が上がるのではないかなと思っています。

私は南魚沼市健康ポイントの内容はよく知りませんが、目標達成者数が前年より増えたのはいいことだと思います。ただ、目標達成というのはどういうものなのか教えてもらいたいです。ま

た、参加している人はどのくらいいるのか。前年度よりどのくらい増えたのか。目標達成者数よりも参加者数の方が大事なような気がします。どんどん参加してもらえるように何かを工夫した方がいいのではないのでしょうか。

(熊倉委員長)

では、健康ポイントの質問について回答をお願いします。

(西瀧生涯スポーツ課長)

健康ポイントは令和2年度から始めた事業で、令和4年度は6月1日から始まっております。目標設定については、ウォーキングでも、登山でも、自転車に乗るなど、何でもけっこうです。それに対して達成した方が一日1ポイント付与されるというものになっており、これは自己申告制です。あとは各種イベントに出たときに10ポイント、講演会に出たときは5ポイントでありまして、インセンティブとして市の特産品を提供しています。ただし、この事業は必須事項として健康診断を受ける必要がありますのでここが注意です。人間ドックでも市の定期検査でも、これを受けて初めて応募できるという仕組みになっています。

今までの2年間の参加傾向を見ますと、60代女性が非常に多いです。地域は六日町地域の方が多いです。やはりあとは健康づくりを継続して行いたい方。我々はこの辺りを分析しながら、健康づくりを進めていきたいと思っております。

先ほどの羽吹委員の話にあった坂戸山の山頂の富士権現社の前にも健康ポイントのQRコードが納めてありますので、LINEをお持ちの方はそこへ行ってQRコードを読み込むとポイントを付与されるようになっていきます。これは各スポーツ施設にも掲示してあります。しかし、まだまだ我々も周知が市報やウェブだけでは足りていないと感じています。やはり口コミが最高だと思っておりますが、まだまだ検証すべきことはあります。

(熊倉委員長)

佐藤委員から自由に意見ををお願いします。

(佐藤委員)

自転車の関係は、県の方でもこの3年間は地域振興事業として市に補助金を出して、様々な支援をさせていただいております。一昨年度であればサイクルステーションの設置について、昨年度は動画制作を支援いたしました。

昨年3月には湯沢町・南魚沼市・魚沼市連携自転車活用推進協議会というものが立ち上がって、全国に3つしかないナショナルサイクルルートを目指そうと全長約185kmの雪国魚沼ゴールデンサイクルルートを創ったところです。先ほどお話があった自転車道は当該ルートにはまだありませんが、とりあえず地図上にルートを設定し、国が進めるルートに県内で初めて載ったということで一歩前進しました。ただ残念ながら、案内看板や路面の走行車線の案内などの走行環境もまだ整っていません。また、利用者の受け入れ環境についてもこれからというところです。

県として今年度はサイクリングマップのアプリに関してソフト面の支援をする予定です。またルート上の案内看板設置に向けた調査やルート上の危険個所の調査を委託により行う予定です。今後それが進めば次年度以降更なる進捗があらうかと思っております。

県の本庁としても、佐渡一周のコースや上越市と糸魚川市間の久比岐自転車道を売り込んでいる動きがあります。それから最近、十日町市と津南町が長野県と組んで自転車の取組をかな

り進めてきています。私どもの地域を含めて県内で先進的ないくつか地域があるということで、県として重点事業を掲げた中で予算付けをし、ソフトとハードの両面で支援していこうと動いているところです。

この事業を進める上では広域連携も非常に大事だと思っております、南魚沼市だけではなく湯沢町と魚沼市と絡んでの取組なので、各市町でできない部分を県として広域支援していこうと取り組んでいます。ぜひ、南魚沼市からも湯沢町と魚沼市に対してこの取組が進むように今一度強い要請をしていただければと思います。

自転車の取組は県、市、町一体となってやっていきたいと考えていますのでお願いいたします。

(熊倉委員長)

隣の市と町との事業なので、県としてこれをしっかり繋いでいただくとともに、予算付けもお願いします。

(林市長)

十日町市とは話を始めています。いよいよ選挙区が変わって、南魚沼市が今度上越と一気に結びつきます。これは我々にとってもものすごく歴史が変わる出来事です。500年前に坂戸城と春日山が繋がっていたかもしれませんが、我々にとってそれはいつのことやらわからないくらいに昔のことです。中越と上越であり、今となっては交流も薄くなっているように思います。道の延伸が予定されていますが、自転車道やツールド妻有などの関連イベントで繋がりを創っていくことも一つであると、まさに道の会議のときに向こうの首長さん方と話をしました。今は湯沢と魚沼を結んでのゴールデンサイクルルートですが、この先は海に向かって走っていくという発想になってくるのではと思っています。海へ行けばそこで泳いでもらっているのです。長野に向かっていくことも津南町を通じれば行くことができます。こういうことも視野に頑張っていきましょう。

(熊倉委員長)

選挙区割りが新しくなるのもいいことかもしれませんね。

約束の時間になってまいりましたので、まだいろいろご意見はあろうかと思いますが、この事業については、コロナ禍もあってKPI自体は厳しい数字ですが、実ははるかに大きな夢を描けるからそれに向かって進んでいこうと。より高い目標が設定できるし、実現していけることだなということでは有識者意見としてください。

一方、前の事業に関しては数字的にはいいけど、KPIに反映するかはともかくとしてもっと高い数値が出せるから、それに向かって一丸となろうということにしましょう。

この二つの事業が両輪となることによって、この南魚沼の地域振興は、周りを取り込みながら、あるいは姉妹都市や全国のこの地域に関係する人々の総力を通じて盛り上げていき、今後3年間頑張りたいという意見でよろしいでしょうか。

(一同)

異議なし。

議題(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略 全体の進捗状況について

(企画政策課 見留企画主幹)

資料3、資料4により令和3年度末現在の進捗状況を説明

(熊倉委員長)

これ一つ一つ議論していったら大変になります。この戦略や計画の進捗状況について、この推進委員会の会議の中ではいつ頃議論する必要があるのでしょうか。

今日ということではなくても、これだけ膨大な令和7年度までの事業について、途中で皆さんと意見交換しなければならないと思うのですが、それについてはどのように考えていますか。

(高橋企画政策課長)

本日は報告という形にさせていただきました。ただ、お気づきの点があれば、意見や感想をいただければと思っています。やはり総合計画の期間中に一部会議の時間を割いて、この全体の進捗状況についてもご意見を伺いたいと思います。

(熊倉委員長)

皆さん配られたこの資料について何か特別にご意見はありますか。

できればこれは、また2時間くらい別に時間を取っていただかないと、委員の皆さんも意見を出しづらいと思います。この議論はまた別の機会にするのでどうでしょうか。

(一同)

異議なし。

(企画政策課 見留企画主幹)

今年度にもう一度会議ができるかは分かりませんが、次年度以降に機会を別にするなどを検討したいと思います。よろしくお願いします。

(熊倉委員長)

本日は皆さん大変お疲れさまでした。委員の皆さんも私もかなりきつい言葉で言ったこともあるかもしれませんが、いい数字だからと安心せず、悪い数字だからと落胆せず、もう一歩強く前に出ることによって、多くの人々が参加もできるし、市の政策も進捗するだろうと皆さんからご意見いただきましたので、それを加味して国へは報告してください。ただ、我々はそれ以上の成果を出していきましょう。そういうことでよろしいでしょうか。

(一同)

異議なし。

(熊倉委員長)

では、最後のまとめを関副委員長にお願いしたいと思います。

(関副委員長)

私は28歳頃から南魚沼市へ定住をするようになって、それまでは東京にいました。この地域で何をして遊んでいるかなと思って書き出してみましたが、川遊び、スキー、キャンプ、自転車など、東京にいたらすぐできないことが、ここでは本当にすぐできます。なので、いまさら東京に戻りたいなんて1ミリも思わないです。妹や父親は東京にいますが、やはり田舎暮らしはいいなと言い始めています。

RESASを見ると2040年に人口がいよいよ4万人になるという時代が当然来るのだと思いますが、今後二つおもしろいなと思っていることがあります。一つ目は通信技術の発達で5Gが今後6Gになって、どこでもリアルタイムで仕事ができるようになることです。この空間に人がリア

ルに現れて、今よりももっとリアリティに仕事ができるようになるだろうと思います。二つ目はドローンが発展して、時間という観念がすごく変わることです。あと10年後20年後はみんながドローンで空を飛んで、今の移動時間が三分の一になるでしょう。

この通信技術とドローンで、世の中がものすごく変わってくると、いよいよ地方の時代が来るのではないかと考えています。暮らしやすい地方を、10年20年かけて更に今より豊かにしていくと、通信技術とドローンで世の中がすごく変わったときに、地方のどこに行こうかなという時代が来るのではないのでしょうか。

ぜひ今後もこの会議を通じながら、未来に向けてよりいい地域づくりができればと考えておりますので、今後とも委員の皆様にはご協力をよろしく申し上げます。本日は大変お疲れさまでした。

午後4時45分終了